

支部訪問(7) 戸塚支部



平成 25 年 10 月の横須賀支部から始まった「支部訪問」も、今回の戸塚支部で一応終りといたします。合計 7 回行った支部訪問の最後に、やっと横浜の支部が登場する訳です。

友松会の組織は横浜・川崎など県下 7 ブロックに分かれており、その中でも横浜ブロックには 18 支部あって支部の数では最大です。ですから「支部訪問」も本当なら横浜ブロックの支部から始めるべきだったのですが、横浜の支部には横浜ならではのいろいろな問題があり、そのため最終回にやっと戸塚支部をお訪ねすることが出来ました。

今回、支部長さんから支部のいろいろな状況を伺い、支部総会・懇親会にも参加させて頂いて支部のいろいろな方と親しく話を交えました。以下がその記録です。

(H.28.2.19)



山崎浩一郎 戸塚支部長
(俣野小 校長)

対 談 戸 塚 支 部 の 現 状 を 語 る

語り手 支部長 山崎 浩一郎 (昭和 57 年卒)
聞き手 弘報部 黒川 鈴谷 (昭和 35 年卒)

2 月 19 日の支部総会当日は、支部長さんから落ち着いてお話を伺っている時間が無いので、小田原・下支部を訪問した時と同様に事前に質問事項を送り、それについての回答を当日頂きました。下記はそれを元にして対談ふうに書き直したものです。

黒 川 本日は公務ご多忙のところ戸塚支部総会・懇親会を開催され、御苦勞さまでございます。横浜ブロックの場合は支部長が現職の校長さんということで、いろいろなご苦勞がおありと思いますが、さっそく戸塚支部の現況についてお伺いしましょうか。

戸塚は横浜ブロックの 18 の支部の中では会員数が多い方だと思いますが、現在は校内・校外会員の数は何名くらいですか。

山 崎 戸塚支部の今年度の校内会員は 100 名、校外会員は 74 名おります。合計で 174 名となり、横浜ブロックで四番目に大きい支部です。

黒 川 以前と比べると、その会員数は増加していますか、減少していますか。

山 崎 校外会員の数はそれほど大きな変動はありません。しかし校内会員の数は年によって異動による変動があり、最近はずいぶん減っています。

黒 川 減少しているのは、やはり国大卒の新人がなかなか入ってこないということもあるのでしょうか。

山 崎 そうですね。採用者数に比べて国大新卒者の割合が少なくなっていることが影響しているでしょう。

黒 川 戸塚支部では平成 26 年度・27 年度に、国大の新卒業



生が何人くらい採用になりましたか。

山崎 26年度には若干名、27年度にはいませんでした。

黒川 戸塚支部は横浜ブロックの18支部の中では会員数が多い方ですが、会員数が多いことによる支部運営の大変さが有ると思います。それはどんなことですか。またまた反対に多いことによる利点もあるのではと思いますが。

山崎 会員数が多いと、「友松」や各種のお知らせなどを配布するのに手間と費用がかかります。現職の支部役員には校務もあり、必要なものを配布するが遅くなって会員の皆さんにご迷惑をおかけしてしまいます。何人かで分担するなり、数人で集まって作業すれば良いのですが、皆さん忙しいだろうと思い支部長一人でやっつけてしまいます。他の役員の皆さんにお集まり頂くのも悪いかなと思ったり、一人の方が自分のペースで出来る利点もあるので、ついそうしてしまうのです。

反対に会員数が多くて良い点は、懇親会などの際に声をかければ多くの方が出席して下さるし、どこへ出向いても戸塚の仲間に出会い、声を掛け合って助けあったりできるということです。先輩が多いのも良い点です。

黒川 戸塚支部には小・中の管理職の会員は、どの位いますか。

山崎 小学校は校長14名、副校長9名です。中学校は校長1名、副校長3名です。

黒川 戸塚区内の小学校は28校・中学校は11校ですから、小学校での管理職会員の比率はかなり高いと言えますね。

ところで、支部長が現職の校長である場合とOBである場合といずれも一長一短があると思います。戸塚支部の場合は支部長が現職ですが、現職であることの良い点と良くない点と、それぞれどんなことが考えられますか。



戸塚駅周辺

山崎 支部長が現職であることの良い点としては、同じく校内会員である他の校長との情報の伝達がメール等ですぐ出来ることです。こういう人達に支部の役員になって貰えれば、校長会等で良く会いますし支部の仕事もし易いです。ただ管理職以外の校内会員については、名簿上でしか知らない場合も多いです。

支部長が現職の校長であることのデメリットとしては、校務が忙しく支部長としての仕事も遅れがちで、校外会員の方との連絡も遅れ気味になることです。横浜以外ではOBの方が支部長を務めている支部も多いと思いますが、横浜の支部でもそういうことを考えても良いのではないのでしょうか。

黒川 会誌『友松』の終りの方に「支部役員名簿」が載っています。氏名の下に学校名が入っているのが現職の方ですが、それを見ると横浜の他に中ブロックとか県央ブロックとか、幾つかの支部で現職が支部長をやっていますね。四・五年前に当時の山崎事務局長にこの件で質問しました。「横浜の支部は支部長が現職の管理職だが、なにか取りきめがあるのか」と聞いたのです。その時の山崎さんの答えでは、「支部の総会で、支部長をOBから選ぶ」と議決すれば、横浜の支部でもOBが支部長をやっても問題ない」とのことでした。しかし横浜は支部によってはOB

の人数が少なく体制が不備で、「OB で」と決めても実際には無理な所もあるでしょう。横浜の場合は支部の数が多くなりすぎて OB の数が少なく体制が整わない支部も多いのです。だから横浜の場合は支部の再編成の面から考えて行かないと、この問題は解決しないでしょうね。

支部を運営する上でのもう一つの問題として、支部役員と校内会員との連絡、支部役員と校外会員との連絡をどのようにして行っているかということがあります。横須賀や藤沢、相模原や小田原・下などこれまでに私が訪問した支部では、この連絡のための組織を作っていますが、戸塚支部の場合そのような組織がありますか。

山 崎 支部役員を組織的に機能させることが大切だと思いますが、現状ではもっぱら支部長が連絡事務を行っている状況で、支部体制が有効に組織化されているとは言えません。今後はもっと有効な体制を考えて行かねばならないと思っています。先日の支部長会の折に、横須賀支部の活動例もご紹介頂きましたので、参考にしたいと思っています。



戸塚駅周辺の街並み

先輩方をもっと頼って、校外会員のネットワークも広げていかなければならないと感じています。

黒 川 横浜ブロックは会費の徴収率が良くないといつも言われるのですが、戸塚支部の場合友松会費の徴収はどの様にしていますか。

山 崎 校内会員・校外会員共に、総会その他の行事のお知らせと一緒に会費についてもお手紙を出してお願いしています。

黒 川 支部長さんが独りで取り組んでいるのでは大変ですね。では最後にお聞きしますが、現在の支部活動の問題点がありましたら、お聞かせ下さい。

山 崎 現在の問題点としては、会費納入率が 40%にとどまっていること、総会などの案内を出しても皆さん忙しくてあまり参加してくれないことです。管理職になると友松会の有り難さ、重要性が認識されるのですが、それ以前の若い時代には日々の学級経営・教科指導に追われ、仲間意識を感じる場も友松会よりは日々の職場や研究会組織であったりして、なかなか同窓の意識が高まらないのが現状です。

今回久しぶりに支部総会・懇親会を開くことにしましたが、多忙の中で 15 名の方が参加してくれました。特にその中に管理職以外の先生が 2 名参加してくれたことは、とても嬉しいことです。このような若い人への広がりやの輪を、私達先輩が広めていかねばと思います。同窓生の親睦の会を毎年開くことで、仲間の輪も広がり、意識も高まっていくのではと考えております。

黒 川 本日はお忙しい所を支部の現状についていろいろとお話頂きありがとうございました。それではこれで終わらせて頂きます。

総会 並びに 懇親会の記録



開会の言葉 梅田比奈子(名瀬小校長)

戸塚支部の総会が本日開かれまして、本当に良かったと思います。加えて友松会会長の芦川先生、顧問の金子先生にご出席いただき、友松会戸塚支部も今後益々盛りあがっていくのではと思います。

その良いきっかけになるように、今日の会で楽しく交流しながらいろんなお話を伺えればと思います。それでは開会いたします。

支部長挨拶 山崎浩一郎(俣野小校長)

日頃から会長の芦川先生、顧問の金子先生にいろいろとお世話になっております。特に戸塚支部の大先輩である金子先生にお会いすると、いつもにこやかに「支部総会はいつやるの」と訊ねられます。たぶんなかなか総会が開かれないので、堪忍袋の緒が切れそうなのだと思いますが、そんなことは気振りにも出さずにいつも優しく接して下さいます。今回このように支部総会が開催できたことを、良かったと思ひ嬉しく思っております。

支部のなるべく多くの方に声をかけご案内したのですが、現職の方はお忙しいようで本日これだけの人数になりました。でも逆に言えばご多忙の中を、これだけの人が集まって下さったことをとても嬉しく思います。特に今日は若い校内会員がお二人、出席して下さいました。後ほど自己紹介をして頂きます。

友松会費の方も、今年は会誌「友松」をお送りした校外会員の17人の方から会費を送って頂きました。校内会員の方も、今年はちょっと頑張っって戸塚小は10人分、川上小も7人分など合計63人分の会費が集まっております。戸塚支部の力が今後もこのように結集出来たら良いなと思っております。それでは宜しくお願ひします。

芦川友松会々長の挨拶



日頃から友松会に御支援御協力を頂きまして有難うございます。今日、久しぶりに戸塚の駅に降りたのですが、戸塚の発展ぶりに驚きました。金子前会長さんが戸塚小の校長で社会科研究会の会長をされていた頃には戸塚によく来たのですが、その頃と比べてすっかり変わっていて吃驚しました。

今日は戸塚支部の総会・懇親会が開かれましたが、戸塚のこの活動を突破口に各支部の活動が高まれば素晴らしいと思います。本日の会合の開催に尽力された支部長さんをはじめ支部役員の方々のご努力に敬意を表します。

今日は折角の機会ですので、友松会の現在の状況につき簡単にお話しようと思います。友松会の本年度の総会は川崎で行い、県下及び東京の各支部から200人を超える参加者にお集まり頂き、盛大に開催いたしました。

昨年10月31日には、常盤台で国大のホームカミングデーが行われました。今日この会に出席されておられる幸柳研修部長のご尽力によりまして、例年行っている「豊かな教

育を語る会」を今年度は二部制にして一部は例年通りの「豊かな教育を語る会」とし、二部はパネルディスカッションとしました。二部は大学と連携して「自分が将来どのような職業を選択するか」というテーマで、現場の学生の代表や最近の卒業生の代表、更に保護者の代表にも出て貰って討議をしました。

新春の集いは1月の23日に例年と同じ会場で行われ、各支部から140人を超える会員が集まり盛会でした。

今年度の活動の中で例年と違う点を上げますと、今年度の新生より4月の入学時に同窓会費を集めさせて貰いました。同窓会はもともと卒業と共に入るのですが、国大の全学部を網羅する校友会が結成されたのにタイミングを合わせて、学生の皆さんに友松会に関心を持って頂き、また同時に友松会としても卒業以前の学生さんを支援して行きたいと考えて、思い切って「新生からの会費集め」を行ったのです。

その会費は2万円ですが、学生時代とその後の時代を併せて10年間の会費に充てて行きます。集めた会費はゼミの研修費の補助や就職時期の就職支援活動を今まで以上に強力に行なうことに使っていく予定です。

最後に来年度からの学部名称変更についてお話いたします。現在の学部の名称は「教育人間科学部」ですが、来年度から「教育学部」に戻ります。そして現行の二つの課程のうち、「人間文化課程」がなくなり「学校教育課程」だけになります。現在は景気の良いので、教員にならずに一般企業に就職する学生が多くいます。残念なことです。そういう傾向の中でも教員を選ぶ人は頑張ってくれています。教育学部になったら教員養成一本になるので、学生の募集定員は230人くらいになるでしょう。そのうち200人くらいは教員になって欲しいと思います。

就職支援については、7月の教員採用試験の前にOBや現職の校長にお願いして、最近の採用試験の内容について細かく指導して貰っています。

友松会の支部は現在45ありますが、今日の戸塚支部のように支部総会をやっているところは2/3くらいです。全支部が総会をするように、支部活動の活性化を友松会の活動の柱としていきたいと思っています。どうか今後とも宜しく願いいたします。



挨拶と乾杯の音頭 金子 禎 顧問

友松会に所属する人は若い方では大学出たての22歳、古い方では90歳を超えた人がいる。そういう人達が総会では一堂に会する。こういう会はあまりありません。

こうして戸塚支部の会合でも、集まった人達が先輩後輩ということで、何か親しみを感じます。よく人と人との絆を大切にと言うけれども、実際にはなかなかそうではない。しかし教員の世界では先輩が、同じ大学を出た後輩を大事にしてくれる。

こうやって皆さんと一緒に居ると、同窓の繋がりを強く感じます。川上小の倉本校長さんは、私が附属小時代の教え子です。梅田さんは私が豊田小の校長の時に、その新任の



昔、戸塚大踏切があった場所の表示

先生で良い授業をやった。村上さんは戸部小で私と入れ違いだった。芦川さんは附属で一緒だったし、中村さんとは文部省の海外研修で一緒でした。そういうふうにいるいろいろな所でいろいろな人と繋がりがある。そういう所で触れあうと関係が生じてお互いに大切にす。大学時代から死ぬまで仲良くすると言う事で、お互いに友松会を大事にしてゆきましょう。それでは友松会の発展とご出席の皆さまの健康を願って乾杯します。乾杯！

自己紹介と近況報告

・本村淳一（南舞岡小校長）

国大を卒業してから 36 年たちました。就職してからすぐに体育をさせられ、以後ずっと体育で現在は校長会の健康教育部会長をやっています。

私は校舎が常盤台に移って二年目に入学したので、キャンパスには今ほど樹木が茂っていませんでした。今常盤台に行くと、あの頃は 1m くらいの苗木だった木々が青々と成長していて、年月の長さを感じます。

今日は戸塚支部の総会に出席出来て、本当に良かったと思います。こういう会に出ると顧問の金子先生や芦川会長さんなど先輩の皆さんにご指導をいただけて有り難いと思います。今日出席された方々を見ると、先輩方は別として現役世代では私が一番上かなと感じるのでちょっと威張っていいかと思ひます、自分の学校ではあまり威張れないので。

現在の戸塚支部には国大の新卒業生がなかなか来ないので、先輩方の尽力で国大の新卒をもっと戸塚支部に廻して頂けるとありがたい。そして戸塚区の友松会を今後も益々盛り上げていきたいと思ひます。



・正木久美（南舞岡小学校）

平成 2 年に国語科を卒業しました正木と申します。今日初めて友松会に参加させて頂き、こんなに温かい会なのだ嬉しくなりました。先輩方のお話を伺って、「あ、自分も同窓生の一員なのだ」と感じました。

初めは私などが出て良いのかと思ひていたのですが、先輩方からたいへん温かく迎えて頂き、とても嬉しく思ひております。



・高野光翔（南舞岡小学校）

私は平成 24 年に卒業しました。専攻は美術で現在 26 歳です。今日は私が本郷小に在学した時の校長先生だった芦川会長さんにお会いできて良かったです。あの頃、学区を流れる鮎(いたち)川で無心に遊んでいました。

・倉本 恵（川上小校長）

川上小の倉本です。国大は 59 年卒の理科です。ちょうど一週間くらい前に常盤台のキャンパスに行ってきましたが昔と比べて樹も大きくなり、バス停からの道にウッドデッキが

あったりしてずいぶん変わったなと思いました。

私が附属小の5,6年の時に、担任は金子 禎先生でした。小学校時代の金子先生の社会科の授業のノートはいまでもとってあります。社会が大好きだったのですが、社会科は間口が広いので自分には無理と思って理科に行きました。

副校長の初任の時は戸塚区の学校だったので、正月の賀詞交歓会のときに金子先生に励まして頂きました。その後、磯子区で二年間副校長をして校長に昇任し、戻ってきたらまた戸塚区で嬉しかったです。今後とも宜しくお願いします。

・山田 昭 (倉田小校長)

倉田小校長の山田です。友松会との関わりは、申し訳ないが管理職になるまではほとんど無かったと思います。副校長に昇任したのは小菅ヶ谷小でしたが、昇任してほどなく角田祐造先生が訪ねてこられました。

実は私は若い頃にシンガポールの日本人学校に赴任しました。その二年後に校長として赴任されたのが角田先生だったのです。角田先生は、「山田、友松会ちゃんとやってるか」と言われて、それから『友松』の原稿を書け」とか「評議員をやれ」とか、友松会のことをいろいろやらされました。

そんな時に卒業してから何十年ぶりかで国大を訪れました。在学中は植えたばかりだった木が本当に大きくなっていて吃驚しました。キャンパスの木がまだ小さかった学生の頃、私は軟式野球同好会に入っていたのですが、その一年先輩に本村先生がいて一緒にグラウンドで野球をやった仲なのです。同窓生には若い時からそういう繋がりがあるのですね。

今は国大卒業生の若い世代が本当に少ない。卒業生がもっと増えて、友松会が盛り上がると良いなと思っています。



・村上裕子 (東汲沢小校長)

東汲沢小の村上です。今の学校に来て6年目になります。汲沢の校長になった時に、金子 禎先生が運動会に来て下さいました。でも金子先生が園長をされている「ひまわり幼稚園」からは、私の小学校には卒園生が一人も来ていないのです。不思議に思ってお尋ねしましたら、私が校長としてどんなふうに行っているかを見にこられたとのことで、恐縮し有り難く思いました。

運動会当日、私がライン引きの手伝いをしたり交通整理をしたりしていましたが、「あなたは校長なのだから、ここに座っていなさい」と言われてしまいました。

私は戸部小では金子先生とは入れ替わりで、同時期に在職した訳ではないのですが、その入れ替わりの教員が校長になった学校に来ていただけるなんて、なかなか無いことだと思っています。それをやって下さったことで、私はとても感動し人と人との触れ合いの大切さを感じました。こういう繋がり大切さを次の世代にも教えて行きたいと思っています。

・梅田比奈子（名瀬小校長）

私は社会科なので、金子前会長さんや芦川会長さんにお世話になり、学ぶことが多かったです。実は私は現職のまま大学院に行かれる制度を利用して大学院に行ったのです。

最初は校長さんに駄目だと言われたのですが、中村小にいた最後の年に受けてもいいよと言われたので、国大に行って国大の先生に「受けても良いことになりました」と報告しました。すると先生に、「受けられるようになったのは分かったが、受かるかどうかは別だからね」と言われてしまいました。「ちゃんと勉強しているのか。現職の先生は英語が出来ないからね」と言われ、旺文社の大学受験用の英語の参考書の勉強をしました。そうやって大学院に入ったので、皆さんより少し新しい時代の常盤台を知っています。

・山崎浩一郎（俣野小校長・戸塚支部長）

今日、支部総会をやることが出来て良かったです。現職でこの総会に出席しているのは校長さん方ですが、来年は副校長さん方にも来て貰いたいです。そういう点では南舞岡の本村先生が、自分の学校の若い人を二人連れて来ていただいたのは有り難かったです。

私も戸塚支部長を4年やりましたので、この辺りで交代かなと思っています。次期の支部長を山田先生にやって頂くと言う事でどうでしょうか。

・金子 禎（友松会顧問・昭和33年卒）

いつのホームカミングデーでしたか、何かのことで「二人ずつ組め」と言うので、組んだ相手が今日司会をなさっている山田さんでした。その時に山田さんが倉田小の校長だと知って、「倉田小は私が豊田小の校長の時に作ったのだよ」と言いました。

私は小坪小の副校長から豊田小の校長になったのですが、当時の豊田小は児童が1,200人近くいました。だから1クラスの児童は50人くらいでした。そんな状態の所に今の倉田小のすぐ上にマンションが出来るということで、児童数も増える見込みなので倉田小を作ったのです。



豊田小は良い学校だったね、何しろ梅田さんがいたからね。校長になって学級の様子を見るために各組の教室を回って行ったら、校長の授業を見たいと言う職員が何人かいた。私は授業は得意だから、梅田先生の6年のクラスを借りて授業をやり、「今日は校長が授業をやるから見に来い」と職員に言って見に来させました。それから豊田小は良くなったね。

その授業の時にクラスを借りた梅田さんは初任で豊田小に赴任した人です。もう亡くなった先輩に重田 勉という人がいました。その人に頼んで社会科の指導に来て貰った時に、「あの梅田という先生は良い授業をするね」と感心していました。

豊田小のあと西区の戸部小の校長になりましたが、戸部では全く平穩無事だったのでかえって豊田が懐かしいくらいでした。

戸部のあと戸塚小の校長になり、定年後21年間は幼稚園の園長です。今年81歳になり

ましたが、幼稚園協会の会長をやったり県の理事をやったりしたので、去年の11月9日に神奈川県私立学校教育功労者表彰を受けました。(拍手) 今も老骨に鞭打って幼稚園で働いています。

・幸柳孝一 (友松会研修部長・昭和38年卒)

友松会でホームカミングデーや就職支援をやっているの、卒業生と学生との壁を無くすべく頑張っています。

(金子顧問) 幸柳さんは書家なので、友松会で何か行事がある時の看板の字は幸柳さんに書いてもらっています。いつぞやの友松会の大会の時に参加者に渡す予定の賞状が間に合わず、急きょ幸柳さんに頼んで書いて貰ったことがあります。

・小島順子 (昭和44年卒)

飯田北小から上矢部に転任したら、友松会の戸塚支部の書類がポンと机の上に置いてありました。前任の校長さんに電話すると「次はあなたが支部長をやるのよ」ということでした。

上矢部小で退職したのですが、退職した時の副校長が今日出席されている本村先生でした。元気な本村先生に助けて頂きながら、無事に卒業しました。退職した時に本村さんに「えっ、校長先生、退職金でこれしかくれないのですか」と言われました。ちょうど退職金が毎年減らされている時期でしたから。

その後、ご縁が有って特相センターに四年間勤めました。嘱託でしたが12時間勤務で大変でした。なぜ12時間勤務かという、一日三件相談を受けたら報告書を三枚書かなければならない。それには何時間もかかるのです。出来ないと休日出勤です。それが四年で終わってやれやれと思ったら、聾学校の浜っ子スクールをやってくれと言われて手伝いに行っています。

聾学校は国大と道路一つ隔てた所にあるので、特別支援教育専攻の学生や手話のサークルの学生が、ボランティアで浜っ子に手伝いに来ます。今の国大生は本当に真面目で5時に「浜っ子」が終わると、これから図書館へゼミのレポートを書きに行くだとか、バイトだとかに行きます。

真面目なのだが反面で、今の学生さんは大事に育てられすぎてひ弱い所がある。だから教員になってもそういう真面目な学生ほど挫折して、休職したり辞職したりしてしまう。あんな良い子だったのと思うのだが。ちょっとチャランポランな学生の方が、かえって元気にやっているのです。

そういう真面目な学生が教育実習に行ってくると、「先生、普通学級は大変ですね」と言う。そして特別支援教育を専攻している学生が多いので、就職の時には特別支援学校を希望すると言うのです。たしかに特別支援学校と言うのは一つのクラスに何人も先生が付いているから楽ですよ。普通学級では一人の教員が30人とか40人とかの児童を抱えてや



常盤台の国大キャンパス

っている。それが辛いとかきつuitとか言うのはどうかと思います。

今の学生はすごく真面目でやさしい。子ども達にやってと言われたら何でもする。まるでイクメンです。やさしいのも良いがもう少し不真面目で適当なところが有った方がよいのではとも思います。

今日、国大の特別支援教育の中川教授と話をしたのですが、国大の場合は教員になる学生が四割くらいしかいないので、それをせめて六割に上げないと予算を削られてしまうとのことでした。でも学生は真面目な良い子が多いから、せつかく教員になっても挫折して止めてしまう者もいるのです。

・中村章悟（昭和 46 年卒）

今日のご案内頂きましてありがとうございます。支部長さんは大変だなあと、また金子先生ともご縁があるので出席せねばと思ひ、こうして参りました。

金沢区に初めて校長になって行った時に支部長をやらされました。まさに「やらされる」と言う感じで、なんでこんなことをやらなければならないの、退職した人がやれば良いのにと思ひました。川崎などでは退職した人がやっていますね。



国大常盤台キャンパスの道

私は友松会の会合には出たくないはずと思ひていました。私達の年代の者の友松会に対する感情は、上の年代の人とも下の年代の人とも違ひます。私は昭和 46 年の卒業ですが、私達の年代の者は国大紛争の真ただ中に在学し、卒業しました。その時に友松会は私達に何もしてくれませんでした。それが私達の年代の者が友松会に冷ややかなことの理由です。

教職に就いてからも、周囲の人に国大出身とはなかなか言えませんでした。横浜や神奈川で教員になっている者はすごく少なく、たくさんの同窓生が神奈川・横浜以外で教員になっています。

若い時には「友松会だ」と言うと、「何だ、おまえ友松会か」と言われる中で過ごしてきたのです。そういう事情が有ったので、「大学も友松会も何もやってくれなかったじゃないか」と思ひていました。だから友松会にも出たくなかったのですが、その気持ちもだんだん変わってきたように思ひます。そしてその変化は良いことだと思ひます。

今日は若い方も出席しているので、ぜひこういう会を大事にしていきたいと思ひます。

・芦川友松会長（昭和 38 年卒）の話

さきほどから国大生の進路の話が出ていますので、ちょっとお話ししようと思ひます。去年の学生の就職状況ですが、120 人くらい教員採用試験を受け 1 次の合格者が 114 人、不合格が 6 人でした。合格率は非常に良いと言えます。他の大学に聞くと、受験者の半分か 1/3 くらいしか一次に合格していません。そして国大の場合二次には全員合格しています。この結果は就職支援で先輩達が、模擬試験を丁寧にやっている結果で大変ありがたいと学生が感謝しています。

ただ問題なのは、国大の卒業生が先生に「なれない」のではなくて、「ならない」のです。

なりたいと思う人間は合格しています。だから先生になりたと思う人間を増やしていかなければなりません。

来年度から教育人間科学部が教育学部になるのですが、今年度 380 人の卒業生(学校教育課程と人間文化課程を併せて)の卒業生のうち 120 人しか教員になっていない。これだったら国大の教育学部を廃止して千葉大や埼玉大で養成できる、と文科省は言っています。だから学部長も苦勞していて、大学の方も教員志望者を増やしたいと言う強い希望を持っています。

現在、国大を卒業して大学院に進み、国大の教授や準教授になっている人が 50 人近くいます。これらの人達がこの問題にもっと関心を持ってくれるように、国大支部の活性化を図りたいと思います。それには OB がきちんと纏まっていることが大きな強みになるので、ぜひ友松会の結束を固めて行きたい。

そのためには支部長さんを中心とした支部の組織、またその上の本部の組織を強化することが大事です。友松会の会合も平日の昼間にやっていますが、現職の人や OB でも仕事を持っている人のために、会合を夜に開催することも考えて良いのではないかと思います。こいつた現行の体制も少しずつ変えて行く必要があるのではと感じています。

現在私が友松会の会長職を受け継いでいますが、昭和 38 年卒業の私の同期生が副会長や各部の部長として私を助けてくれています。こういう同期の繋がりも大切なので、学生時代から同期の会の準備をしてもらい、卒業と同時に発足出来るようにしたい。

今日出席された南舞岡の高野先生のような若い人の所にも、もしかしたら来年新卒の後輩が赴任してくるかもしれない。そういう時に先輩の高野さんに分からないことを聞きに来るかもしれない。そういう繋がり大切と思うので友松会を大事にしてください。お願いします。



戸塚支部総会に参加した友松会々員

・黒川鈴谷 (友松会弘報部・昭和 35 年卒)

今日私は友松会のホームページに掲載している「支部訪問」の取材として、支部長さんをお願いして参加させて頂きました。今まで横浜の支部を一つも訪問していなかったので、最後の締めくくりとしてこの戸塚支部をお訪ねしたのです。

結論的に言えば、今日戸塚支部を訪問して良かったです。良かったことの一つは管理職の会員以外に若い現職の方が 2 名参加してくれたことです。これまでにこういう若い会員が参加してくれた支部は、あまり多くはありません。その意味でとても良かったです。

もう一つ良かったのは、参加された方々の中に、以前同じ職場に居てお互いに顔見知りだという人が多かったことです。戸塚は横浜の中でも歴史の古い地区なので、そのことと関係あるかもしれません。ともかく横浜の中でもそういう人間関係の濃さがあり得るのだと言う事が発見できたのは良かったと思いました。

◆ あとがき(「支部訪問」の企画を終わって) 弘報部 黒川 鈴谷 (H.28.3.10)



平成 25 年 10 月の「横須賀支部訪問」を第一回として、その後の支部訪問は川崎宮前支部、伊勢原支部、相模原支部、藤沢支部そして昨年 9 月の小田原・下支部と続けました。私の弘報部員としての任期も本年三月に終わりますので、締めくくりの時期と成りました。

ところで最大の会員数と学校数のある横浜ブロックの支部が、これまで一つも登場していません。これにはもちろん理由があります。これまで県下のいろいろな支部を回って分かったことなのですが、それらの支部には支部運営についての有利な条件が幾つかあります。それは以下のようなことです。

- ① 比較的に地元出身者が多く、退職後も OB としてその支部に残る者が多い。従って支部の OB 会員の層も厚くなり、支部活動を支えやすい。
- ② 人事異動の際に、特に希望しければ支部外に異動しなくて良い。従って支部内の人間関係が濃密になる。これも支部活動を活発にするには有利な条件である。
- ③ 校外会員・校内会員ともに異動が少なく、人間関係が濃密なので総会をはじめ各種の支部活動や会費の徴収もやりやすい。

支部運営に有利な条件とは、ざっと列挙すれば以上のようなことなのですが、これが横浜ブロックの支部ではほとんどすべて当てはまりません。横浜の支部は各行政区ごとにありますので、現職会員の場合たとえ市内の異動であっても区をまたがって移動する場合は、友松会の支部も異動します。一方で支部の OB 会員はもちろん移動しませんので、校内会員が区を越えて異動すればその度に OB の校外会員との結びつきは断たれます。しかも横浜では支部長が現職ですから、支部長自身が退職したり移動したりして支部から居なくなると言うことも起り得ます。

横浜ではこのような理由から、支部活動のあらゆる面でハンディを負っているのです。この事情での支部運営の難しさは、たぶん川崎も同じようではないかと思えます。以上のような郡部の支部との条件の違いがあり、横浜の支部訪問はやりにくさを感じました。

しかし最大の会員数・学校数を持つ横浜ブロックに触れずに、支部訪問を終わることは出来ないなとも思いました。そこで今回、この企画の最後に横浜の戸塚支部を訪ねました。

この企画を終わるにあたって、ご協力頂きました横須賀、川崎宮前、伊勢原、相模原、藤沢、小田原・下、戸塚の各支部の方々に厚くお礼申し上げます。各地の同窓の方々と親しく語り合い友情を深めたこと、同窓生としての親しい感情を分かち合えたことは、私の大きな喜びでした。本当に有難うございました。これで私の担当した「支部訪問」の企画は終わりますが、いつか誰かがこの企画を引き継いでくれることを願っています。



清水が丘 校舎



上空から見た常盤台キャンパス



神奈川師範本館(鎌倉)